

今後の公共下水道の

整備方針を見直します

日常生活では、台所やトイレ、風呂、洗濯などさまざまな場面で水を使います。その量は、1日1人当たり250リットルとも言われています。それら使用した排水は、処理場に集められ、川に流してもよい状態まで処理され、放水されます。

生活排水をそのまま流すと、河川や湖沼、海の水を汚す原因の一つになります。水が汚れると、その水を利用する生き物全てが住みづらくなります。そうならな

いたために、公共下水道の整備を計画的に進めています。

問い合わせ先 上水下水道課 (☎43-7163)

見直しの背景

全国的に課題となっっている少子高齢化による収入の減少、さらに今後はすでに整備された施設の改築更新による整備費の増加なども見込まれることから、公共下水道の整備を、より一層適正に行わなくてはなりません。

このような情勢の中で国は、公共下水道整備の完了を、今後10年程度で目指すよう全国に通知しました。これを受け、府中市でも現在の状況を踏まえ、公共下水道の整備方針の見直しを行います。

府中市の公共下水道には、府中処理区と上下処理区があります。上下処理区の整備はほぼ完了していることから、見直しは府中処理区を対象とします。

府中処理区の整備状況と今後の整備方針

府中処理区は、平成6年に使用を開始し、順次整備に取り組み、今年で25年目を迎えます。

現在の整備状況は、全体整備計画面積1182・8ヘクタールに対し、整備済面積が337・6ヘクタール、整備率は約28・5%です。県内整備率の平均は67%です。

今後は事業計画区域を広げながら整備を進めていくことも必要ですが、すでに整備された施設の改築更新にも取り組んでいかなければなりません。

現在の整備状況や今後の財政見込みからみると、整備計画全体を完了するまでにはさらに多大な時間と費用が必要となり、早期に全

現在の府中処理区の計画図



てを整備することは困難な状況です。そこで、今後の公共下水道の整備は、整備計画地区をブロックに分け、投資効果、施工性、人口密度などを考慮しながら、各検討項

目を数値化し、今後10数年程度で効率的な整備ができる区域を選定し、整備効率の良いブロックから整備する方針へと見直します。